

パブリックコメント手続結果

1. 意見を求めた事項：第4次南相馬市男女共同参画計画（素案）について

2. 意見等の募集期間：令和5年12月1日（金）から令和5年12月24日（日）

3. 意見等総数 : 9件 持参・郵送による意見 : 0件

地域協議会からの意見 : 9件（小高区1件、鹿島区3件、原町区5件）

4. パブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方（意見：No.1、4-8 質問：No.2-3、9）

No.	区分	集約意見9件【内訳：意見6件 質問3件】	対応	市の考え
1	原町区 地域協議会	基本理念が「全ての人がかかわりなく、個性と能力を自分らしく発揮できるまち」となっています。男の人でも女の人でも、それぞれが自分の役割を果たすことが大事と感じるので、男性も女性も考え方が変わってきていると思っています。一方で、根本的に変わっていない部分もたくさんあると感じています。	原案のとおり	市民アンケートでは、「男女の地位の平等感」について、「社会通念、慣習、しきたりで」、「社会全体で」において60%を超える方が男性優位と感じている結果となっています。市民一人ひとりの固定的な性別役割意識や性差に関する偏見の解消を図り、基本理念である「全ての人がかかわりなく、個性と能力を自分らしく発揮できるまち」を目指してまいります。
2	原町区 地域協議会	労働力について、全国と南相馬市は同じ傾向であり、25歳から29歳、30歳から34歳にかけて、女性の労働力が低下しています。要因としては、女性が子育てのために仕事を辞めざるを得ないのではないかと考えます。南相馬市では子育て世代に対して、例えば、子どもを見守るところや、具体的なものが足りないのではないですか。女性の労働力が減ることは、男は働く、女は家庭という概念が強くなると考えます。子育てに対する支援は、具体的にどのようなことを考えていますか。	原案のとおり	女性の25歳から29歳、30歳から34歳にかけて、労働力が低下している原因として、結婚・出産・育児による離職が影響していると捉えております。女性が子育てをしながら働き続けるためには保育環境の整備や育児休業取得の促進が重要だと捉えております。そのため市では、保育施設の整備を計画的に進めるとともに男性の家事・育児への参画の促進、そして、出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまで切れ目のない支援を進めてまいります。
3	原町区 地域協議会	認定外の保育所や児童館を増やすことや預り時間の延長を図ることが、女性が働きやすい環境を作ることに繋がると感じています。預り時間や保育所・児童館の施設情報の提供について具体的な対応を教えてください。	原案のとおり	子育て世帯への情報提供については、子育てに関する各種制度や相談窓口を掲載した子育て応援ハンドブックの配布や市広報誌・市HPのほか、若い世代がなじみやすいSNSや子育てアプリ等を活用したプッシュ型広報で積極的に情報発信を行っております。
4	原町区 地域協議会	市役所の職場同士で結婚した方がいて、ある程度、課長など役職にいと二人でいられなくなり、奥様は辞めてしまったりする傾向があると聞きます。子育てに関係なく、定年間で辞めてしまうことがあるなら、市役所から変えていかないと聞きます。	原案のとおり	課長など役職に就くと、二人で市役所にいられなくなり、女性職員が辞める慣例はありません。今後におきましても、女性職員が定年まで安心して働くことができる職場づくりに取り組んでまいります。

No.	区分	集約意見9件 【内訳：意見6件 質問3件】	対応	市の考え
5	原町区 地域協議会	女性の離職が多いというのは、企業側にもある程度問題があると思います。女性が離職しなくてもいいように、市が推進し、女性が辞めずに済むよう各企業へ働きかけをしてほしいと思っています。	原案のとおり	家事、育児、介護の多くを女性が担っていることが、女性の離職に繋がっていると考えられ、男女がともに仕事と家庭生活の両立が出来るよう、ワークライフバランスを実現することが重要であると捉えております。 また、女性が安心して働き続けるためには、企業における環境整備や男女共同参画への理解が必要であることから、市では企業を訪問し状況をお伺いしながら、各種支援制度の説明、男性の家事・育児参加の必要性等の周知、啓発を図っているところです。 女性が出産や育児等を理由にキャリアを断絶することなく、男女がともにいきいきと働き続けることが出来るよう引き続き取り組んでまいります。
6	鹿島区 地域協議会	昔と今の生活環境は、大きく変わってきていると思います。現在の若い世代は、男女が平等に家事も育児もやっている状況です。今まで当たり前だと思ったことが、実は現在の意識から大きくずれていたと認識しており、意識の違いの解消の面から、もっと啓発を続けていただければと思います。	原案のとおり	市民アンケートでは、男女の役割分担について、男女ともに仕事をし、家事育児も共同で分担するのが良いという回答が令和元年度は40%、令和5年度は54.6%と共同で分担する方が良いという回答が向上しています。また、男性は仕事を中心に、女性は家事育児を中心に行い、それぞれお互いを手伝うのが良いという回答は、令和元年度34.7%に対して、令和5年度は19.1%ということで、男女共同に係る市民の意識は広がっております。 その一方、男女の地位の平等感は、男性が優遇されている、どちらかといえば男性が優遇されている合計が60%を超えていることから、まだ社会一般的には男性優位であると感じている人が多いことから、今後とも啓発活動を十分に行い、ジェンダー平等社会の推進に取り組んでまいります。
7	鹿島区 地域協議会	男女平等の問題は、日本と諸外国を比較した場合、民族性の違いもあると思います。古い年代がだんだんいなくなり、新しい時代になっています。この問題は継続性を持たないと進まないと思うので、継続性を持って進めていただければと思います。	原案のとおり	男女平等の問題に関しては、継続して推進していくことが今後の男女平等社会の実現に繋がっていくこととなりますので、継続的に男女平等参画の推進に取り組んでまいります。
8	鹿島区 地域協議会	思春期保健事業について、性病への感染や10代での妊娠出産などが、問題になっており、性教育の不足があると思いますが、国は性教育に対して控えているようにも感じます。知識として、子供たちが知らないままだと思春期のときに予防できない状態を招いてしまうことから、性教育を実施していただければと思います。	原案のとおり	思春期保健教室の実施に関しては、市内全ての小学校（6年生対象）と中学校（3年生対象）で実施しており、引き続き学校と連携しながら、実施してまいります。
9	小高区 地域協議会	南相馬市の職員の中で、係長以上の女性職員の割合が増えているというのが資料からわかったのですが、具体的にどのような取組をして、このような結果が出たのでしょうか。	原案のとおり	女性職員の活躍推進のための取組方針に基づき、女性職員が多様な業務経験を積み、能力を発揮できるよう、これまで女性職員が配置されてこなかった部署への配置を進め、能力や意欲、適性に応じた登用を図ってきた結果と捉えております。